

令和2年度 第1回 持続可能な自転車駐車場のあり方検討部会 議事録	
日 時	令和2年10月27日(火) 15:30~17:00
開催場所	市庁舎18階会議室
出席者	岡村委員(会長)、小嶋委員、絹代委員、大石委員、鈴木委員、井上委員、 廣崎オブザーバー 計7名
欠席者	0名
開催形態	公開(傍聴者0名・報道関係者0名)
資料	委員名簿、説明用資料
<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 市営自転車駐車場の現状と課題について</p> <p>(事務局)</p> <p>※説明資料を用いて、「市営自転車駐車場の現状と課題について」説明</p> <p>(大石委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車駐車場収容台数は平成25年から横ばいであるが、放置自転車台数が減っているのは、自転車利用者が減っているということか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年ぐらいまでは放置自転車が1万台を超えていた。しかし、ここ数年は毎年2,000台程放置自転車が減っており、昨年の放置自転車台数は約6,100台である。減少しているのは、民間駐輪場が増えたことが1つの要因になっているかもしれない。 <p>(絹代委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児二人乗りの重い自転車は、ラックに自転車を入れるのが大変である。また高齢者は自転車を持ち上げることが不可能である。シニアカー、電動キックボードなどパーソナルモビリティの種類も現在増えつつある。20年、30年後を考えるのであれば、パーソナルモビリティも考慮して駐輪場を考えていかなければいけない。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子乗せ電動アシスト自転車のために平置きで駐輪スペースを確保しておけば、利用しやすいと思うが、現状ではスペースの問題があり確保が進んでいない。 ・ 現在の自転車というカテゴリーだけでは、将来的には不十分だとも考えている。 <p>(大石委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの駐輪場でどれだけの需要があるのか。 ・ 利便性によって重みづけした料金体系を考えるのなら、駐輪場ごとの利用状況を見た方がいいのではないか。さらに、駅の利用状況も参考になるのではないか。 ・ コロナ禍を契機に自転車活用が活性化している反面、鉄道定期利用者はコロナ前と比べて80%から85%の水準にしか戻っていない。さらに、テレワークが推奨されたことでコロナ前の利用者に戻ることはないと考えられる。今後の駐輪場の利用動向を検討する際には、コロナ禍でのデータを取得して参照すべきである。 	

(事務局)

- ・ 駐輪需要については、可能な範囲で次回お示ししたい。
- ・ H30年パーソントリップ調査のデータや最新の駐輪場利用状況も調べて示したい。

(小嶋委員)

- ・ 駅利用者の人数や駅ごとの駐輪場の整備状況（台数）はどうなっているのか。

(事務局)

- ・ 次回に示す。

(鈴木委員)

- ・ バス会社が駐輪場を整備するというのもあるのではないか。バスターミナルまで自転車通勤する人はいないのか。

(井上委員)

- ・ サイクルアンドバスライドは郊外で数少ないが事例があるものの、求める声はあまり聞かない。横浜市はバス路線網密度が他の地方都市に比べると高いため、市民はバス停まで歩いて行くことが多く、バス事業者が自ら駐輪場を整備して利用者呼び込むことまでは想定しづらい。そのため、地方バス会社と比較すると市内のバス会社は違う難しさがあるといえる。

(絹代委員)

- ・ 駐輪場の立地によって料金差を設けてよいかと思う。料金の見直しは必要ではないか。

(2) 検討の方向性について

(事務局)

※説明資料を用いて、「検討の方向性について」説明

(岡村会長)

- ・ 持続可能な自転車駐車場のあり方において部会の検討範囲という観点でご意見を頂きたい。
- ・ 市が中心的な役割を担って管理運営を行うものもあれば、公民連携で行う形もある。管理運営を全部民間会社をお願いする方法や事業者が収益事業として駐輪場を整備する場合、市としての支援等は視野に入っているのか。

(事務局)

- ・ 視野に入れている。
- ・ 駐輪場は公共が一定程度は担うが、全てを公共で担う必要はないと考えている。

(岡村会長)

- ・ 委託料と市営駐輪場の収入の資料はあるか。

(事務局)

- ・ 現状について収支に関する資料はある。

(岡村会長)

- ・ 管理委託以外の諸費用はわかるのか。

(事務局)

- ・ 可能な範囲で用意する。

(岡村会長)

- ・ 市営駐輪場の料金体系については、現状のままという考え方はないだろう。駐輪場の機能強化に関してはいろいろ意見があるが、多様化する車両に対応した設備、料金体系を、議論の出発点として考えてよいか。利用料金の変更については、車種、設備、立地等の観点が必要といえる。

(絹代委員)

- ・ 駐輪場の整備は土地の値段とリンクするのではないか。

(事務局)

- ・ 自動車駐車場に関して言うと、市街地で需要が高いところは料金が高くなる事例がある。

(岡村会長)

- ・ 民間が管理する民営駐輪場に関して、適正な料金設定はあるのか。

(事務局)

- ・ 他都市や民間会社の駐輪場料金の例はある。

(絹代委員)

- ・ ドイツ等海外だと自転車のメンテナンスができる駐輪場や自転車屋が駐輪場管理を行っているところもあるので、海外事例も参考になると思う。

(廣崎オブザーバー)

- ・ 現状では2事業者で市営駐輪場の管理を行っており、同じ整理手数料でもサービスは均一ではない。中長期的に考えるのであれば、指定管理又は管理委託であろうと、事業者の選定時に選定基準としてサービス水準を盛り込むことで最低限のサービスは担保できるのではないか。公平な市民サービスという観点からも検討したらよいと思う。

(岡村会長)

- ・ 民間の会社が駐輪ラックを設置して駐輪事業を行うためには、どれくらいの初期費用がかかり、どれくらいの料金水準だったら成立するのか。客観的な数字は出せるのではないか。管理運営費用について市民に知ってもらうことも大事である。

(事務局)

- ・ 一般的な整備費用や初期費用はどれくらいかかるのかは整理できると思う。

(絹代委員)

- ・ 未来の話になるが、アプリ等で料金の支払いができるシステムがあれば、初期費用を減らせることができるのではないか。

(岡村会長)

- ・ 指定管理者の導入で支払方法等のサービスが充実すればいいかもしれない。

(事務局)

- ・ キャッシュレス機能の導入は必要と考えている。

(鈴木委員)

- ・ 自転車も三輪、四輪や手で漕ぐ自転車など多様化している。何をもって自転車とするのか。

(事務局)

- ・ 将来的には、多様化していく自転車に対応していかなければならないが、まずは普通自転車で議論頂きたい。

(絹代委員)

- ・ シニアカーは実際に増えており、街でも見かける。そのためシニアカーは考慮すべきではないか。

(事務局)

- ・ 駐輪場のサービス水準をどのレベルに設定し、どれがマストであり、どこがオプションで、何が中長期的な課題なのかを明確にする必要がある。

(鈴木委員)

- ・ コロナ禍でバイクも売れている。バイクについても考える必要がある。

(岡村会長)

- ・ どういう考え方で優先順位をつけることができるのか、部会で議論すべき内容かと思う。

3. 閉会

※次回の第2回部会は、12月25日の開催を予定